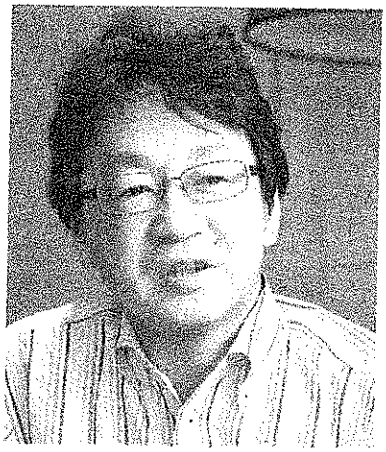
9/18 赤旗

戦争法強行 1年 9・19 各界から

本質をきちんと市民に



ジャーナリスト
斎藤　貴男さん

現在の右翼的な政治の流れは、米国従属と復古的思想とが互いに補完し合いながら進んでいます。

戦争法の本質は米国の世界戦略に日本を組み入れることです。米国の戦争に無条件で従い、国民の命を差し出すことです。同時に、内需が先細るなか、外需を拡大しようとしている日本の経済界の事情もあります。

強引な対外進出は軍事衝突に直面する危険を高め、帝国主義復活の衝動につながります。

安倍晋三首相の個人的なキャラクターも当然ありますが、それだけですませていると中国や北朝鮮の脅威をいわれた途端に思考停止に陥りやすい。難しい経済の話も含めて、問題の本質をきちんと市民に伝えていくことが必要です。

私は、国民連合政府構想にも野党共闘にも基本的には賛成の立場です。ただ、特に都知事選については、真摯に検証して次に生かしてほしい。そうした行為が新たな信頼にもつながっていくと感じています。

市民も強くたくましく

安保関連法に反対する
ママの会@埼玉
辻　仁美さん

「ママの会」は、参院選後も駅前でスタンディングやリレースピーチなどの活動を続けています。運動を可視化していくことが大事だと思います。

自民党改憲草案の問題点を訴え、「学者の会」とコラボした学習会も開いていきたい。平和の思いや暮らしの要望などを伝える政策提言もしていこうと思います。

市民と野党の共闘は、参院選で一定の効果をあげたと思っています。野党が束になり、立憲主義、民主主義を取り戻す、改憲勢力との対立軸が必要です。

政党に働きかける一方で、政党頼みではなく、普段から市民主導の運動を豊かにしていくことが大事と話し合っています。市民がもっと影響力を持てるようネットワークをつくり、強く、たくましくならなくては。

「9・19」を決して忘れてはいけません。安保法制が施行され、沖縄・高江で行われているような権力の暴走が加速しています。看過すれば暴走を許すことになる。一歩一歩運動を進めていきたい。